

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
南海福祉専門学校	昭和43年3月13日	幸島 淳	〒592-0005 大阪府高石市千代田6-12-53 (電話) 072-262-1094			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
社会福祉法人 南海福祉事業会	昭和43年3月9日	小藪 博	〒592-0005 大阪府高石市千代田6-12-53 (電話) 072-267-1131			
目 的	職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専門分野における実務に関する知識・技術及び技能について組織的な教育を行い、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉	福祉 専門課程	児童福祉科	2年(昼)	単位時間 (又は単位)	平成7年文部省 告示第7号	
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	31単位時間 (又は単位)	44単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	10単位時間 (又は単位)	1単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200人	133人	8人	22人	30人		
学期制度	■前期：4月1日～8月31日 ■後期：9月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について ・納入すべき学費を完納 ・当該科目の出席時数が3分の2以上 ・評価は試験により行う。ただし、科目の性質によっては他の方法をもって試験に変える。 ・5段階評価(1は不可)	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月13日～8月16日 ■冬 季：12月28日～1月6日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	所定の科目を履修し、その単位を取得した者に対し、進級及び卒業を認定する。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任を中心に、学生及び保護者と個別面談を行う。			課外活動	■課外活動の種類 保育士に関するボランティア活動の案内を提供している。 ■サークル活動 (有・無)	

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 保育所、児童養護施設</p> <p>■就職率 90.3%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合 86.7%</p> <p>(平成26年度卒業者に関する平成26年5月時点の情報)</p>	主な資格・検定	<p>保育士</p> <p>レクリエーション・インストラクター</p> <p>ピアヘルパー</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学者 9名 ■中退率 5.7%</p> <p>平成 26年 4月 1日在学者 158名 (平成 26年 4月入学者を含む)</p> <p>平成 27年 3月 31日在学者 149名 (平成 27年 3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 体調不良、進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 担任による個人面談をすると共に、保護者への連携も密にしている。</p>		
ホームページ	URL: <a href="http://www.nansen.ac.jp/">http://www.nansen.ac.jp/</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業・業界団体・学術機関の有識者等（以下「企業等」という）との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等からの意見を十分に活かし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年9月1日現在

名 前	所 属
森垣 学	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
中井 久子	大阪人間科学大学 医療福祉学科
澤田 真弓	兵庫大学 生涯福祉学部 こども福祉学科
油谷 佳典	社会福祉法人 永寿福祉会
国本 知美	社会福祉法人 南海福祉事業会 東羽衣保育園
阿形 純次	社会福祉法人 南海福祉事業会 フィオーレ南海
幸島 淳	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校
古川 正博	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校
野村 脩	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校
原田 敬文	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校
久保山 宗男	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校

(開催日時)

平成27年3月2日 14:00~16:00

平成27年9月8日 14:00~15:30

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

業界の方向性、人材の専門性の動向、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能等を十分に把握・分析した上で、本校専門課程の教育を施すにふさわしい教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む）を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育所実習Ⅰ	授業で学んだ理論を実習の中で子どもの姿を通して再確認し、一人ひとりの個性を理解できるように努める。保育者が子どもの育ちを支えるために、日々どのような役割を果たしているかを理解し、子どもと関わりながら一日を通して、様々な役割や仕事について学ぶ。	取石南保育園、幸保育園、 ひがし保育園、
保育所実習Ⅱ	学校で学んだ理論と保育所実習Ⅰで学んだことを基に、保育の方法や保育技術を学ぶ。また、保育所保育指針第6章にあるように、地域への役割を理解し、地域と保育所の関わりについても学ぶ。	取石南保育園、幸保育園、 ひがし保育園、
施設実習Ⅰ	入所（居住）型施設において観察実習・参加実習を行い、「利用者の生活」「利用者を取り巻く環境」「保育士の役割」を理解する。 また、施設における保育内容・養護内容・療育内容を体験的に学び、良き保育士としての自覚を持ち、学習目標を明確にする。	武田塾、あおぞら、 堺市立第2つぼみ園、 しょうとく園、堺あすなろ園 等
施設実習Ⅱ	施設実習Ⅰをより深めた観察実習・参加実習・指導実習を以下の3点を目標に行う。 ①個々の利用者の実態を把握し集団による生活を全体的に理解する。	武田塾、あおぞら、 堺市立第2つぼみ園、

	②保育士の指導・援助の方法を具体的に体得する。 ③施設職員集団の役割を理解する。	しょうとく園、堺あすなろ園 等
<b>3. 教員の研修等</b>		
(教員の研修等の基本方針) 学校は校務に支障のない限り、教育職員に週に1日の研修日を与え、教育職員が各種の研修を通じて、自己の研究内容を高め、学校教育の向上を図る。		
<b>4. 学校関係者評価</b>		
(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)		
平成27年9月1日現在		
名 前	所 属	
(外部委員)		
森垣 学	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会	
中井 久子	大阪人間科学大学 医療福祉学科	
澤田 真弓	兵庫大学 生涯福祉学部 こども福祉学科	
油谷 佳典	社会福祉法人 永寿福祉会	
国本 知美	社会福祉法人 南海福祉事業会 東羽衣保育園	
阿形 純次	社会福祉法人 南海福祉事業会 フィオーレ南海	
(内部委員)		
幸島 淳	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校	
古川 正博	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校	
野村 脩	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校	
原田 敬文	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校	
久保山 宗男	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉専門学校	
(学校関係者評価結果の公表方法) ホームページ		
URL: <a href="http://www.nansen.ac.jp/">http://www.nansen.ac.jp/</a>		
<b>5. 情報提供</b>		
(情報提供の方法) ホームページ		
URL: <a href="http://www.nansen.ac.jp/">http://www.nansen.ac.jp/</a>		

授業科目等の概要

(福祉専門課程 児童福祉科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人権教育	保育現場、幼児教育の現場における人権教育について、子どもの権利条約を中心に学ぶ。	2後	30	2	○		
○			情報技術	Word・Excel 機能の習得、工作上必要な文書や集計表などへの展開・使用方法を学ぶ。	1通	60	2		○	
○			基礎教養講座	基礎学力、基礎教養を身につけ、社会人としての土台づくりをする。	1通	60	2		○	
○			英語	保育の英語を学び将来の職業に役立つ英語コミュニケーション力を育む。	1通	60	2		○	
○			体育講義	生涯健康を維持し、快適な生活を営むために必要不可欠な体力・栄養・病気・救急法等を学習する。	1前	15	1	○		
○			体育実技	各種スポーツを経験することにより、関心を高めルールも理解する。	1通	45	1			○
○			保育原理	保育の意義と目的を理解し、保育者としての基礎的な知識を身につける。 幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づく保育内容や方法について、理解を深める。	1前	30	2	○		
○			教育原理	教育とは何か、その可能性、変遷などを学び、今後教育とはどうあるべきかを問い続ける姿勢を身につける。	1後	30	2	○		
○			児童家庭福祉	子どもの権利や主体性の尊重について、保護者とともに社会全体が生活と発達、自己実現を保障することについて理解を深める。	1前	30	2	○		
○			社会福祉	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷を理解する。 2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解する。 3. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。 4. 社会福祉専門職の役割及び社会福祉援助技術について理解する。 5. 現代における利用者保護制度に関わる仕組みを理解する。 6. 社会福祉関連領域の活動の概要を把握する。	1後	30	2	○		

○			相談援助	福祉の現場で出会うであろうケースを想定し、その対処や解決の方法を演習形式によって体験する。また、実践力を身につけるとともに、自己理解・利用者理解を深めていく。	2 後	30	1		○	
○			社会的養護	社会的養護の概念、理論、歴史、仕組み、支援者の資質、実践の枠組み等を事例も含めて理解する。	1 後	30	2		○	
○			保育者論	1. 保育者の資質について理解する。 2. 保育者と法について理解する。 3. 保育者の専門性について考察し理解する。 4. 保育者の多様な役割について理解する。	2 前	30	2		○	
○			保育原理Ⅱ	保育に関する基礎理論をより多面的に捉え、保育者としての専門性について理解を深める。	2 後	30	2		○	
○			保育の心理学Ⅰ	保育の現場で保育者として子どもの発達にかかわる心理学の基礎知識を習得し、子どもへの理解を深める。	1 前	30	2		○	
○			保育の心理学Ⅱ	保育者として必要不可欠な子どもの発達に関する基礎的な知識や概念を習得し、保育における発達援助のあり方等について考察する。	1 後	30	1		○	
○			子どもの保健Ⅰ	1. 子どもの保健の目的を理解し、発育を支援する保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの成長発達過程や子どもの病気と予防法など基礎知識・技術を学習し、適切な対応について理解する。	1 通	60	4		○	
○			子どもの保健Ⅱ	1. 子どもの成長・発達に応じた健全な発育を支援するための知識・技術を学ぶ。 2. 子どもの健康状態の変化を把握し、異常の早期発見、予防法などを理解する。	2 後	30	1		○	
○			子どもの食と栄養	1. 演習では乳幼児及び学童の保育・養育の場において保育士として必要な栄養の知識及び技能・心構えを習得する。 2. 講義では、小児期の栄養及び食物の知識、日本の食文化を習得する。	2 通	60	2		○	
○			家庭支援論	保育士が地域における子どもとその保護者を支援するという役割を学ぶ。	1 後	30	2		○	
	○		カウンセリング	カウンセリングにおける基本的な技法や考え方について理解を深める。体験学習を中心にコミュニケーション能力を高める。	2 後	30	1		○	
○			保育課程論	入園から卒園までの生活の全体計画である保育課程・教育課程を編成し、それらを具体化した指導計画を作成して、実践する。実践後には、省察・評価をして、見直し検討し、向上につなげていく。	2 前	30	2		○	

○		保育内容総論	幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づく保育内容と保育計画の基本を学ぶ。	1前	30	1		○	
○		健康	子どもたちが積極的に体を動かしたり楽しく行動することを通して健康・安全に必要な習慣や態度を育成するために、具体的事例を通してその指導や援助について学ぶ。	2前	30	1		○	
○		人間関係	幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」を理解する。	1後	30	1		○	
○		環境	子どもと環境とのかかわりについて理解を深め、健全な発達に適切な環境構成や環境を通して行う保育のあり方について学ぶ。	2前	30	1		○	
○		言葉	乳幼児期の言葉の発達を理解すると共に、対応した幼児教育、保育のあり方について考えていく。	1後	30	1		○	
○		表現 I	一人で人前で話す、歌う、演技をする、指導をする等を繰り返し行い、保育者としての力を身につける。	1通	60	2		○	
○		乳児保育	3歳未満児の発育・発達について理解し、乳児保育における基本的な知識や技術を身につける。また、乳児保育の保育計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。	2通	60	2		○	
○		障害児保育	1. 障害をめぐる動向・特別支援教育の理念について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や支援の方法について学ぶ。 3. 障がいのある子どもの保育計画・保育実践について理解を深める。 4. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害児保育に関わる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題を理解する。 6. 多様なニーズに対応できる特別支援教育の在り方を理解する。	2通	60	2		○	
○		社会的養護内容	対人援助の知識や専門的技術を身につけ、社会的養護の現場で応用できる有資格者育成を目指す。	2後	30	1		○	
○		保育相談支援	子どもの健やかな育ちを目指した保護者支援の理論と技術を学ぶ。特に保育の場での支援の実際を実感できるよう事例を多く取り入れ、その事例を通して保護者支援の方法を学び、保育現場でどのような相談支援が行われているかを学ぶ。	2後	30	1		○	

○			造形表現Ⅱ	個人や共同での制作活動を通して、立体表現における様々な材料や表現方法に触れ、指導実践に活かすことができる基礎的な知識や技能を習得する。	1 後	30	1		○	
○			表現Ⅱ	表現Ⅰで身につけた表現力と模擬設定保育と日常生活態度を見直すことから始め、表現Ⅱではその中身と細かいところへの気づきにポイントを当てて学習する。	2 通	60	2		○	
○			造形表現Ⅲ	造形活動を通して、子どもたちならどう考えるか、そして教師、教材の役割についても考えていく力を養う。	2 前	30	1		○	
○			子どもと文学	絵本についてよく学び、絵本とは「子どものための本」であることを深く理解する。絵本の力・絵本の可能性について気づき、子どもの育ちを支える絵本であることを学ぶ。	1 前	30	2	○		
○			音楽表現Ⅰ	1名の講師が5～6名の学生を担当し、ピアノの基礎技術を習得するとともに、子どもたちとピアノや歌を通して楽しくコミュニケーションがとれるような表現方法を身につける。	1 通	60	2		○	
○			造形表現Ⅰ	個人や共同での制作活動を通して、平面表現における様々な材料や表現方法に触れ、指導実践に活かすことができる基礎的な知識や技能を習得する。	1 前	30	1		○	
○			身体表現	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために、必要な知識や技術を習得する。子どもの運動機能の発達を理解し、いろいろな遊具を使ってのみたてや、ごっこ遊び、運動遊びなど、実践を通して学ぶ。	2 通	60	2		○	
○			言語表現	保育の本質を探りながら絵本、紙芝居、人形劇、おりがみ、手遊び等の実際を学び、子ども自身による文化的創造活動の援助方法と現場での実践力を身につける。	2 通	60	2		○	
○			音楽表現Ⅱ	音楽表現Ⅰで習得した演奏技術を更に深め、パートを増やすと共に卒業後の学習に向けて練習方法を身につける。 中級者・上級者に対しては、教則本等も使用して就職採用試験対策を行う。	2 通	60	2		○	
○			レクリエーション実技	レクリエーション実技の基本的理解とレクリエーション・インストラクター取得のための実技を実践しながら、企画・実施・評価までできる援助者を目指す。	1 通	60	2		○	
	○		レクリエーション概論	レクリエーションの必要性・理念と実践について学び、レクリエーションが生きる喜びにつながることを知る。	2 前	30	2	○		
○			保育所実習Ⅰ	1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の科目の内容を踏まえ、子どもの保育	1 前	80	2			○



			及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。						
○		施設実習 I	1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	1 後	80	2			○
○		保育実習指導 I	施設の役割・機能、子どもを取り巻く環境の理解、保育者の職務内容等について事前に学習する。また、実習終了後、自らを振り返り自己評価を行い、実習体験で学んだことから保育観、児童観を確認しながら実習の重要性を学んでいく。	1 通	60	2			○
○		保育所実習 II	1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の科目や保育実習 I の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。	2 後	80	2			○
○		施設実習 II	1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。	2 後	80	2			○
○		保育実習指導 II	1 年生での実習体験を基に、施設の機能理解、子ども理解、保育者の役割等を積極的に深く学ぶ。	2 前	30	1			○
○		保育実践演習	学んだ学習知と保育実習等で得られた実践知との統合を図り、使命感や責任感のある実践的指導力を身につける。	2 通	60	2			○

○		教育実習	幼稚園での保育の実際について体験的学習をする中で幼児の理解や保育者の役割、職務内容、保育の流れ、そして幼稚園のあり方について理解する。	2 前	180	4			○
○		教育実習事前事後指導	1. 実習の意義を理解し、実習に対する心構え、実習日誌の書き方、指導案の書き方を知る。 2. 実習に必要な保育教材の準備や子どもとの適切な関わり方などを学び、実習に備える。 3. 実習終了後は、実習の課題と反省点について報告会を行い、保育者としての役割や専門性について学びを深める。	2 前	30	1		○	
○		卒業研究	研究テーマの決め方や研究の過程、発表に至るまでの研究方法を学ぶ。調査・研究したことをまとめ、最終授業で研究発表会を実施する。	2 前	30	1		○	
○		教育方法論	1. 幼児期の発達の特徴を理解し、幼児期における教育の基本を学ぶ。 2. グループワークはロールプレイを通して、保育の実践方法を理解する。	2 前	30	2	○		
○		教育相談	教育相談の必要性を学び、ワークショップを通して理論と体験をつなげながら、関わり方を学習していく。 教育相談における基礎的な態度を学習し、身につける。	2 通	60	2		○	
○		憲法	国の基本法である憲法を学習することによって、国の統治機構や人権の保障についての理解を深める。	1 前	30	2	○		
○		子ども学概論	「子どもとは」「子ども学とは」何かを医学、法学、教育学、福祉学、心理学の多面的観点から捉えるとともに、発達期における成長課題を明確にする。また、多元的諸問題を直視し、「子ども・原点回帰」を基底に家庭、保育・教育、地域の三位一体による子ども理解と支援アプローチの具現化を探求する。	1 前	30	2	○		
○		就職指導	1. 就職をするにあたっての諸手続きについて知る。 2. 過去における本校学生の就職活動状況、就職試験の傾向について理解する。 3. 学生個人の進路をできる限り早く定め、その方向に向かって個別指導をはかる。 4. 就職試験にむけて履歴書の書き方やマナーについて理解する。 5. 一般教養の模擬試験を行い、自主的に学習する意欲を高める。 6. 就職後の社会人として必要な礼儀作法、権利、義務などを含めた知識を養う。	2 前	30	2	○		
合計				58 科目	単位時間 ( 101 単位)				